新型コロナウイルスの感染対策として、少人数・申し込み制に変更して開催しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回2月のてがたんは2月12日(土)で、テーマは「てがたん樹木検定・冬編」です。ぜひご参加ください。2月1日の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は2月6日（日）です。

1月の観察コースと内容

●コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場

●観察日時と天気：2022年1月8日（土）10:00～11:00　晴れ

●参加人数：10名（大人8名、子ども2名）

●市民スタッフ：4名（**木村 稔**、**北村章子**、小泉伸夫、伴野茂樹）

●博物館友の会スタッフ：1名（古澤紀元）

●鳥博職員：1名（望月みずき）

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】
キジ科：キジ／カモ科：ヒドリガモ*、マガモ*、カルガモ*、コガモ*、ホシハジロ*／カイツブリ科：カイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ／ダイサギ／コサギ／クイナ科：オオバン／カモメ科：ユリカモメ／セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ、ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ（カモ科）／ドバト（ハト科）

【昆虫】
チョウ目：オオミノガ幼虫／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ

【クモ】
ジョロウグモ

【哺乳類】
タヌキ（ため糞、足跡）

【木の実】
カバノキ科：ヤマハンノキ、ハンノキ／メギ科：ナンテン／バラ科：トキワサンザシ／ウリ科：カラスウリ／ミズキ科：アオキ／アカネ科：ヘクソカズラ

【草の実】
ナデシコ科：オランダミミナグサ／アブラナ科：ナズナ／キク科：オニノゲシ、ノゲシ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ

1月の観察アルバム

今回のてがたんのテーマは「もっと知りたいユリカモメ」でした。観察会の日の朝はとても寒く、手賀沼は広い範囲の水面に氷が張っていました。手賀沼の遊歩道沿いでユリカモメを観察し、木村さんから万葉集の歌とユリカモメの生態についてお話しいただきました。

今月の案内人
木村 稔さん・北村章子さん

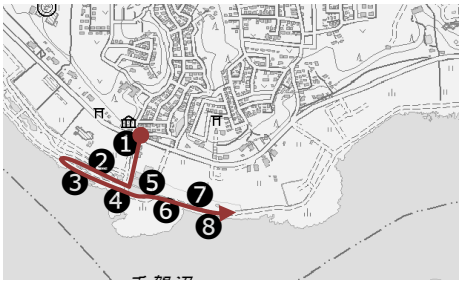
❶越冬中のオオミノガの幼虫

❷シジュウカラのオス

❸寒風に耐えていたジョロウグモ

❹バッタなどの獲物を探していたモズ

歩いたルートと観察した生き物



❺シジュウカラと群れていたエナガ

❻木の上で群れていたムクドリ

❼歩き回り餌を探していたキジの雄

❽ヨシ原で見られたオオジュリン

今月の鳥　ユリカモメ（チドリ目カモメ科）

ユリカモメは夏にロシアなど北方で繁殖し、冬になると越冬のため日本へやってきます。日本で見られる多くのカモメ類は沿岸域によく生息していますが、ユリカモメは海沿い以外に内陸の河川や湖にも入り込みます。ユリカモメは魚類を食べるほか、甲殻類や昆虫類、時にはパンなども食べる雑食性です。カモメ類は見た目が似ているためどの種も同じような生態をしていると思われがちですが、食性や好む環境など細かい生態が異なっています。身近なユリカモメはカモメ観察入門にぴったりの種といえるでしょう。

ユリカモメには青や白のカラーリングがつけられていることがあります。これは寿命や移動を調べるために研究者がつけているものです。これらのリングをつけた個体をみつけたら、下記のURLからご報告ください。
http://birdbanding-assn.jp/J05_color_ring/yuri.htm

ユリカモメ冬羽。春から夏には頭が黒くなる。